



未来創造科（８年生）における実践事例

教育学部附属義務教育学校後期課程 教諭 福田大介

本校の未来創造科では、「住みたいまちプロジェクト～ふるさとの明日を創ろう～」というテーマを掲げ、地域や社会が直面する課題の解決を通して、自己の生き方や社会のあり方について考えることをねらいとしています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、校外での体験活動の多くが中止となりました。そこで８年生では、SDGs（持続可能な開発目標）の視点から「住みたいまち」について考える学習を行いました。１学期には、17の目標の中から興味のあるものを１つ選び、世界でどのような問題が起こっているのか、解決に向けてどのような取組が行われているのか調べてレポートにまとめました。２学期には、職業とSDGsのつながりについて考えました。興味のある職業（企業）を１つ決めて、実際に行われている取組を新聞にまとめ、発表会を開きました。最後に、学習のまとめとして「住みたいまち」について考えました。

SDGsの視点を取り入れることで、より広い視点から「住みたいまち」について考えることができました。今年度の成果や課題を次年度以降に活かし、引き続き持続可能な地域社会の実現の一翼を担う人材の育成に努めてまいります。

